

Peace
Truth
LOVE

平和と真理と、愛

Donation News 2026

寄附事業のご報告

— 心から感謝をこめて —

茨城キリスト教学園は2027年、創立80周年を迎えます。

学校法人 茨城キリスト教学園
IBARAKI CHRISTIAN EDUCATION COMMUNITY

ご寄附に関するお問い合わせ

茨城キリスト教学園 寄附係

TEL.0294-52-3215 (代)

〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1

mail donation@icc.ac.jp

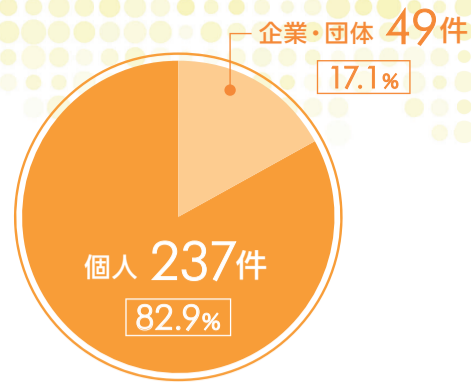
寄附サイト <https://www.icc.ac.jp/donation/>



2025年度（2025年4月～2026年3月） 寄附募集実績について

寄附総額

10,854,213円



寄附の用途指定割合

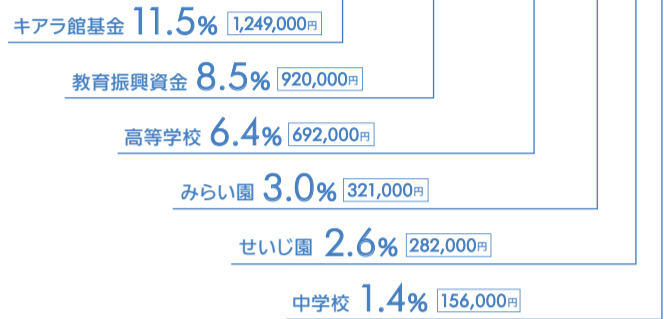


2025年度 寄附報告

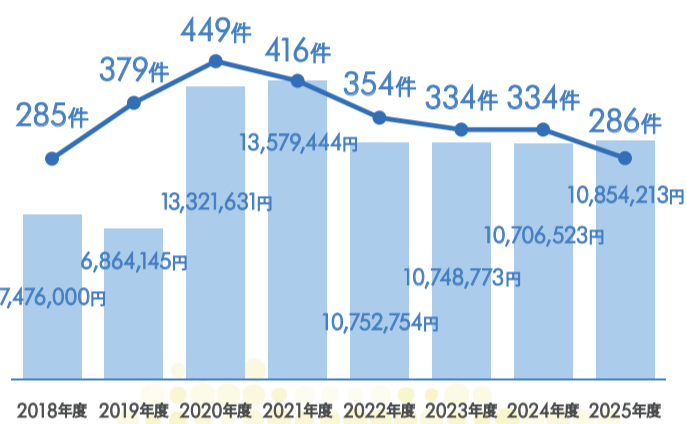
2025年度は、286件、10,854,213円のご支援をいただきました。前年度と比べて寄附件数は減りましたが、寄附総額が増え、年間目標寄附額の1,000万円を達成することができました。寄附の用途別割合は、用途を指定しない「学園全体寄附」への寄附が最も多く約3割となりました。また、キアラ館基金および認定こども園各園への寄附の割合が昨年度と比べ大きく増加しました。円安や物価高騰に伴い休止していた高校生の留学プログラム「G.R.E.A.T.Program」が昨年度、再開しました。このプログラムは「ICグローバル人材育成奨学基金」を活用し、参加する生徒に奨学金を給付しています。また「IC未来サポート基金」で、大学やキアラ館の備品の更新や新規購入、高校体育館にはクライミングウォールを新設し、ワンダーフォーゲル部のトレーニングに利用しています。さらに、キャンパス内を彩る「アンネのバラ」の育成促進のため、ビニールハウス設置等にも使わせていただきました。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、本寄附事業の寄附残額は、49,088,496円(2026年3月31日現在)です。



ローガン・ファックス記念講堂の寄附者銘板に対象者(単年度累計で個人10万円以上、法人50万円以上)のご芳名を掲載しております。



年度別寄附件数・総額



2025年度 寄附事業報告

ICグローバル人材育成奨学基金

1. 海外へ留学する学生・生徒への奨学金事業

	給付人数	給付総額
大学・大学院	6名	1,000,000円
高校	12名	1,800,000円



2. 海外からの留学生への奨学金事業

出身国	給付人数	給付総額
ベトナム	6名	1,440,000円
中国	8名	800,000円
ウクライナ	1名	600,000円
韓国	3名	420,000円
イタリア	3名	380,000円
キルギス	2名	280,000円
インドネシア	1名	240,000円
台湾	1名	120,000円



3. グローバル教育支援事業

内容	金額
認定こども園「人形劇団望ノ社による英語人形劇・影絵劇鑑賞」	114,486円



IC未来サポート基金

1. キアラ館

内容	金額
補助椅子および収納ワゴン設置	321,640円
アンネのバラ育成環境整備	162,445円



2. 大学・大学院

内容	金額
学生会館の長テーブルの椅子更新	1,210,000円



3. 高等学校

内容	金額
クライミングウォール設置 ※寄附者用途指定事業です。	350,000円



教育振興資金

内容	金額
施設拡充、教育活動支援等教育環境整備	920,000円

2025年度の本学園の主な教育環境整備については、「事業報告書」をご覧ください。

事業報告書URL

https://www.icc.ac.jp/edu/about/disclosure/business_report/index.html



未来教養学環って、何？

現代社会は、国際紛争、気候変動、経済状況の変化、ICTやAIの社会実装など多様な課題が次々と生じる時代になりました。今後、社会で活躍する学生は、これらの社会課題に適切に対応することが求められています。そのため、大学における教育スタイルも今、変化の時代を迎えています。

そこで今回は、大学に2024年に誕生した「未来教養学環」について学環長の小幡先生に話を伺いました。新しい教育スタイル「未来教養学環」の「？」に迫ってまいります。

Q1. 「学環」と従来の「学部・学科」では、どのような違いがあるのでしょうか？

A1: 学環は、文部科学省が定めた「学部等連係課程」の制度に基づいて設置されている学部相当の組織です。従来の学部・学科のように特定の専門性のみを追求するのではなく、学部組織の枠組みを超えた分野横断的な学びを進めるのが学環の目的です。具体的には、当該大学にある既存の資源を活用し、複数の学部が緊密に連係・協力することで学環が組織されます。そのため、他学部・他学科に属する教員が兼任で学環の教員を務めます。なお、茨城県では本学と茨城大学が2024年度にこの制度に基づく学環を開設しています。

Q2. 本学の「未来教養学環」の特徴について教えてください。

A2: 本学にある4学部7学科（文学部現代英語学科・児童教育学科・文化交流学科、生活科学部心理福祉学科・食物健康科学科、看護学部看護学科、経営学部経営学科）すべての協力により運営されているのが未来教養学環です。このため、7学科それぞれから1名以上の教員が集まり学環教員組織を構成しています。多様な専門知を持つ教員が、それぞれの良さを掛け合わせながら実践的な学びを提供するのが学環です。学びの集大成として3・4年次に「未来教養プロジェクト演習」があるのも学環の大きな特徴です。この演習では、様々な専門性を持つ教員複数名と学生が、地域の方々と連携しながら社会課題を解決するためのプロジェクトに取り組みます。座学ではなく、社会で広く行われているようなプロジェクト立ち上げ・運営・協働・省察・改善といった一連の流れを在学中に学ぶことができるわけです。今年度は、学園のアンネのバラを通じた地域貢献や、日立市における多世代の交流に関するプロジェクトが進行中です。こうした学びの準備として、1・2年次には社会人基礎力を養う科目群が集中的に配置されています。また、近隣自治体や企業等において学生が教員の指導の下に取り組み「インターンシップ」が3年次に配置されているのも特徴の一つです。

Q3. 「未来教養学環」にはどのような学生が向いていますか？

A3: 特定分野に特化した学びに集中するのではなく、卒業後を見据えて大学在学中に様々な学びに触れながら社会経験も積みたい、という学生に未来教養学環は最適です。具体的には、高校の「総合的な探求の時間」が好きで、自ら問題意識を持つことやフィールドワークを行うこと、またグループで緊密にコミュニケーションをとりながら活動を進めることにやりがいを感じた方は未来教養学環に向いています。



Q4. 在学生は、学生生活についてどのような感想を持っているのでしょうか。

A4: とりわけフィールドワークを伴う授業で多くの学びや様々な気づきを得ているようです。実際に学外に出向き、グループ単位での協働学習をする中で、「学ぼうとすることや考えることに意欲的になり、『学ばなければ』ではなく『学びたい』という気持ちが強くなった」という声や、「人に自分の思いを伝えるスキルが高まった」という感想があります。また、データサイエンスやプレゼンテーション、ファシリテーション、社会調査といったスキルを身に付ける授業がとても役立っているという声を聞きますし、未来教養概論、問題解決演習、サステナビリティ入門、多元的共生社会論といった重要な概念を学ぶ授業でも良い学びをしているようです。

Q5. 将来、学生にはどのように活躍することを期待しますか？


A5: 社会の諸問題に積極的に興味・関心を持ち続け、多様な価値観を認める寛容の精神を持ち、国際社会を見据えつつ地域社会で広く活躍して欲しいと期待しています。また、自治体を始め、地域社会を支える企業・団体、起業など、様々な所に活躍の場を見出して欲しいと願っています。

大学へのご支援を希望される方は、「IC未来サポート基金」で、「大学・大学院」を用途としてご指定ください。ご支援はこちら。



ICグローバル人材育成奨学基金による奨学生メッセージ

G.R.E.A.T. Program
高等学校
山田 芭菜さん
アビリン・クリスチャン大学(アメリカ)に留学




私には、将来スポーツ通訳者になるという夢があります。家族は、普段から私の夢を応援し、留学の機会を多く与えたいと言ってくれているのですが、経済的に十分な余裕がある訳ではないため、このような奨学金をいただけたことは大きな助けになりました。このプログラムで、アメリカの歴史や文化を学ぶだけでなく、人間的成長の機会となり、将来の夢に近づき大きな一歩となりました。この感謝を忘れずこれからも頑張っていきます。

海外語学研修
大学 現代英語学科 2年
秋山 花菜さん
オクラホマ・クリスチャン大学(アメリカ)に留学



奨学金によるご支援のおかげで語学研修に参加でき、行動力の大切さを学びました。現地では自分から動かないと何も始まらないと感じ、1人でカフェに行き店員の方に積極的に話しかけ、交友関係を広げました。また、ホットチョコレートの発音が伝わらなかった際には電子辞書の音声機能で練習し再挑戦すると無事に注文できました。この経験から、主体的に行動することが成長や出会いにつながると思感しています。心より感謝申し上げます。

交換留学
大学 現代英語学科 2年
渡邊 光柎さん
リンネ大学(スウェーデン)に留学




グローバル奨学金のご支援により、スウェーデンでの留学という貴重な経験を行うことができました。寄附者の皆様のおかげで安心して新しい環境に挑戦することができました。留学を通して多くの学びと成長を得ることができたことに感謝しています。特に自分で物事に対処する力や新しいことに挑戦する力が身につきました。将来は英語教師として、この経験を生徒たちに伝えていきたいと思っています。

大学留学生
ホー・ティ・チャウ・トゥアンさん
ホーチミン市外国語情報技術大学(ベトナム)出身



皆様、こんにちは。私はベトナムから来た留学生のチャウトゥアンです。この一年間、奨学金をご支援いただき、心より感謝申し上げます。奨学金のおかげで、夢を追い続けるための環境と機会を与えていただきました。これは物質的な贈り物だけではなく、精神的な支えにもなっております。奨学金のおかげで、経済的な不安を感じることなく、勉学に励み、自己研鑽を続けることができました。皆様のますますのご発展とご成功を心よりお祈り申し上げます。改めて、深く感謝申し上げます。

大学留学生
ホ・チャン・アン・ニエンさん
フエ大学 外国語大学(ベトナム)出身



交換留学生として一年間本学で学ぶ機会をいただきました。物価が高い中での留学生活は、正直に言って不安や大変さも多くありましたが、奨学金のおかげで生活の心配を減らし、安心して勉強や新しいことに挑戦することができました。慣れない土地で心細くなることもありましたが、「支えてくれている人がいる」と思うと頑張る力になりました。日本で出会った人や経験は、私にとって一生の宝物です。この感謝の気持ちを忘れず、将来は誰かを支えられる人になりたいと思っています。本当にありがとうございました。

大学留学生
パジニャク・ユリアさん
イワン・フランク記念リヴィウ国立大学(ウクライナ)出身



この度は奨学金を賜り、誠にありがとうございました。奨学金のおかげで経済的な不安が軽減され、勉学に専念しながら安心して学生生活を送ることができました。教材を購入して日本語力も向上し、自炊や旅行を通して日本文化への理解も深まりました。戦争下のウクライナを離れ、落ち着いた環境で学べたこの一年は、私の人生にとってかけがえのない時間です。心より感謝申し上げます。